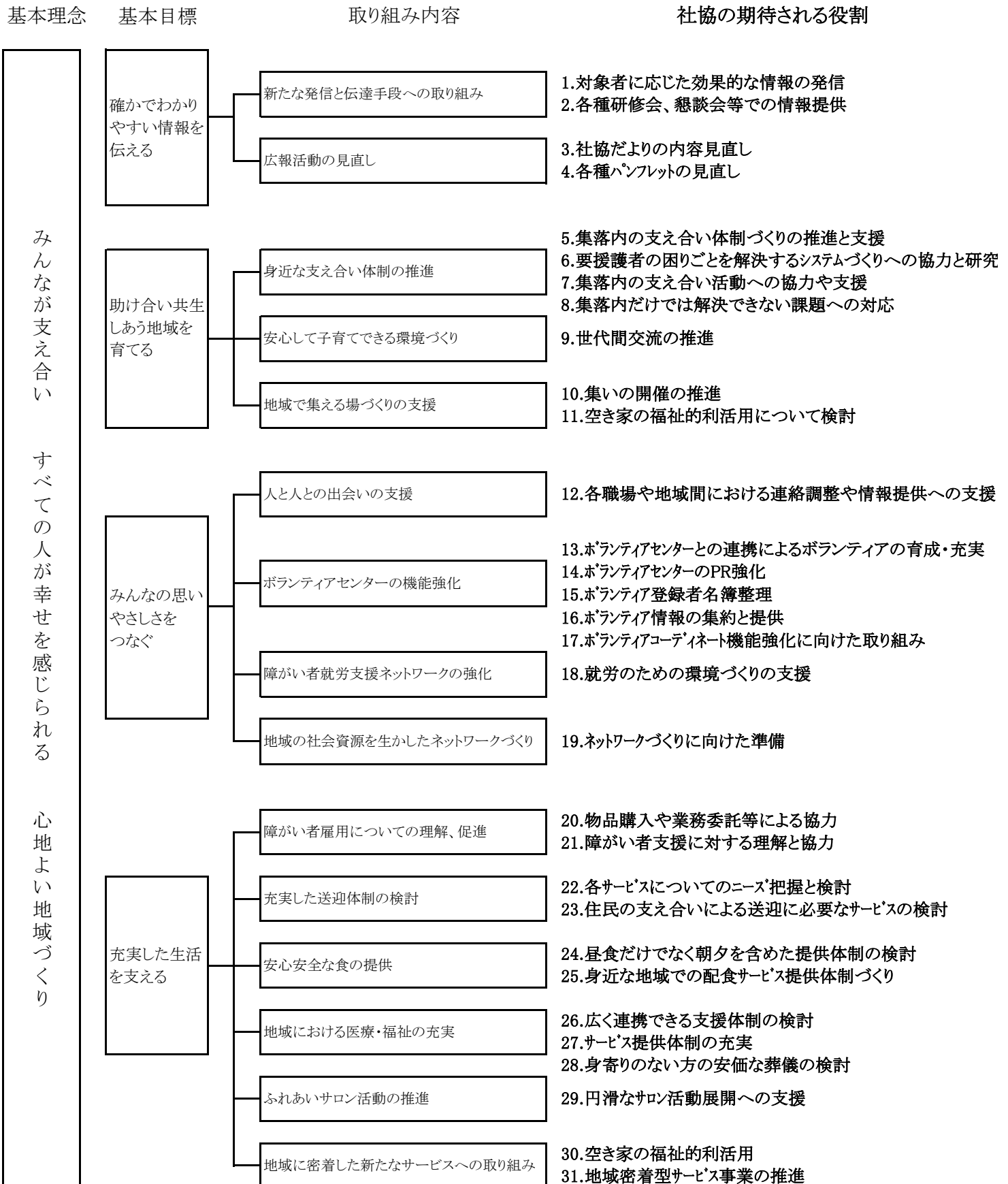


若狭町地域福祉活動計画体系図

地域福祉活動計画における社協の期待される役割を果たすため事業に取り組みます。



評価について

《評価方法》

社協の期待される役割に対して、どの程度達成できたかを評価するために、各部署で取り組んだ内容について利用者、利用者家族、関係機関、イベント参加者等を対象としたアンケート調査を実施し、その結果と自己評価を総合的に評価しました。

《評価ランク》

AランクからEランクまでの5段階とし、具体的な取り組みの成果について評価しました。

Aランク：大いに成果を上げた

Bランク：一定の成果を上げた

Cランク：半分程度の成果を上げた

Dランク：少し成果を上げた

Eランク：ほとんど成果があがらなかった

《評価点》

評価ランクをもとに評価を数値化しました。

Aランク:5点

Bランク:4点

Cランク:3点

Dランク:2点

Eランク:1点

《評価結果》

各事業の評価点をもとに、社協事業全体の評価点(平均値)は、3.24点で達成率は64.8%でした。

若狭町社会福祉協議会発展強化計画

【使命】

理想の福祉を追求します

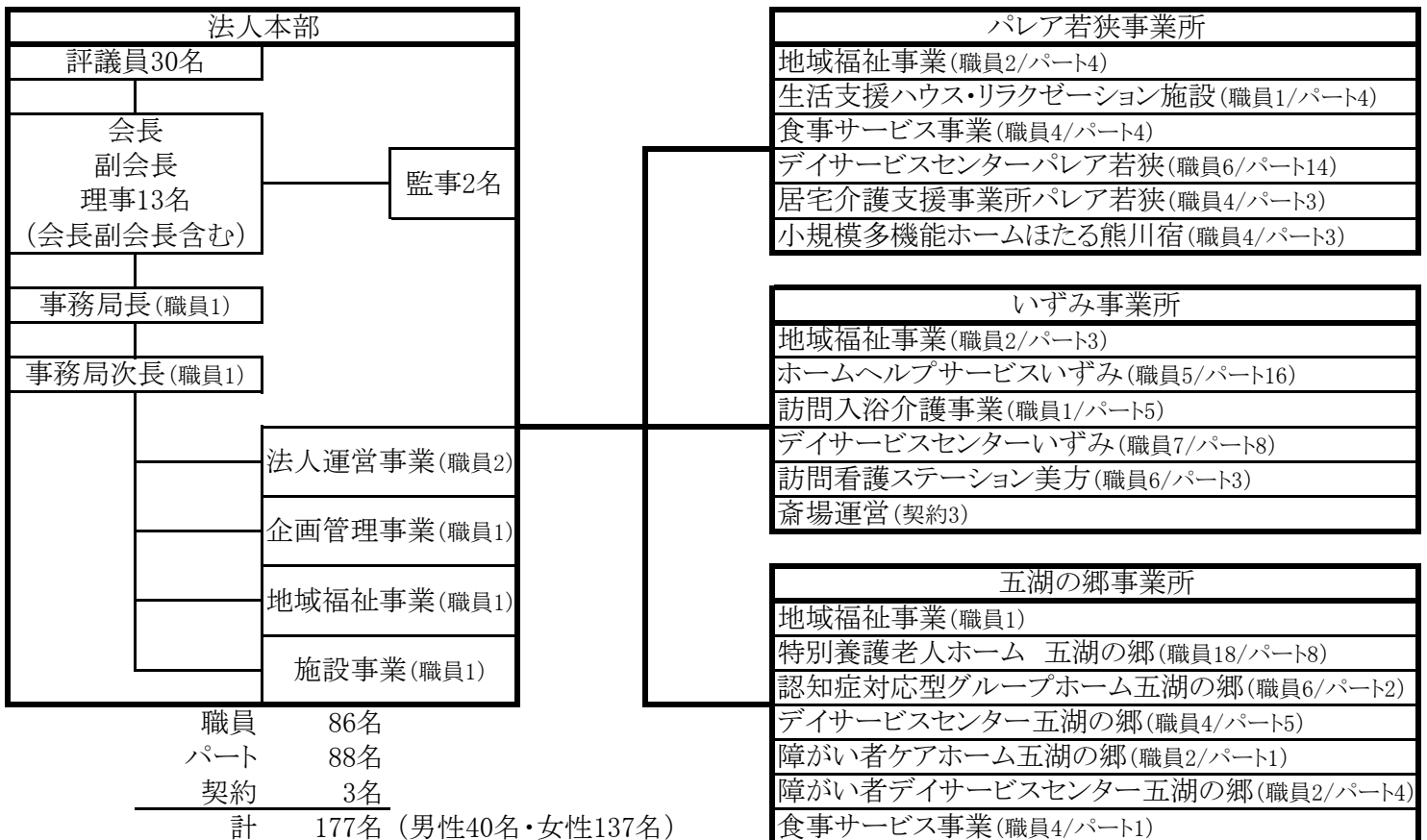
【組織理念】

1. 私たちは、地域と共に歩みます
2. 私たちは、希望ある未来への礎となります
3. 私たちは、信頼され愛され続けるためにたゆみない努力と挑戦を続けます

【スローガン】

声をかたちに

【組織図】 ※平成24年3月31日現在



【財政状況(主なもの)】

事業区分	収入総額	支出総額	備考
公益等事業	19,831,305	18,713,870	リラクゼーション、葬祭事業含む
地域福祉等事業	81,593,320	188,859,749	法人運営事業含む
介護保険等事業	636,733,916	487,507,937	自立支援事業含む
合計	738,158,541	695,081,556	

第2次地域福祉活動計画評価 (平成23年度社協事業)

【事業名】	小地域福祉活動推進事業
【基本目標】	助け合い共生しあう地域を育てる 充実した生活を支える
【取り組み内容】	身近な支え合い体制の推進 安心して子育てできる環境づくり 地域の社会資源を活かしたネットワークづくり 充実した送迎体制の検討 ふれあいサロン活動展開への支援
【期待される役割】	集落内の支え合い体制づくりの推進と支援 要援護者の困りごとを解決するシステムづくりへの協力と研究 集落内の支え合い活動への協力や支援 集落内だけでは解決できない課題への対応 世代間交流の推進 ネットワークづくりに向けた準備 住民の支え合いによる送迎に必要なサービスの検討 円滑なサロン活動展開への支援
【評価点】	3.5点 <達成率70%> (小地域福祉活動推進セミナー) 7月30日に実施したが、概ね参加しやすい時期との回答をいただき、時期的には良い時期に実施できた。参加者は160人と去年と同様に少し少なかったものの、たくさんの方が参加いただいたが、全集落の参加はなかったように思う。参加した方の感想としては非常に良い評価をいただいた。 (小地域福祉活動推進モデル事業) 23年度のモデル事業は、第1期のモデル集落が指定期間を終了したが、それぞれ特色ある活動ができ、継続して取り組んでもらえることになった。新規集落は2集落としての指定の定員まで達することができず、さらなる周知と理解が必要。社協も入り込んでモデル集落の取り組みを検討したかったが、十分できなかった。
【今後の取り組み】	(小地域福祉活動推進セミナー) 昨年同様、全国の取り組みや事例や、小地域福祉活動の意義や必要性についてセミナーを実施する。 (小地域福祉活動推進モデル事業) 昨年同様、モデル集落を指定して推進して行く。

第2次地域福祉活動計画評価 (平成23年度社協事業)

【事業名】	福祉委員活動推進事業
【基本目標】	みんなの思い、やさしさをつなぐ 充実した生活を支える
【取り組み内容】	人と人との出会いの支援 地域の社会資源を活かしたネットワークづくり
【期待される役割】	各職場や地域間における連絡調整や情報提供への支援 ネットワークづくりに向けた準備
【評価点】	2.6点 <達成率52%> (地区単位での福祉関係者の連携に向けた取り組み) 全9地区で懇談会を実施したが、特に上中地域で福祉委員の参加が少なかった。(仕事をお持ちの方が多いため) 名前も顔も知らない方が多かったが、懇談会を実施することでつながりができた。日頃から連携をとっている委員さんの連携のしかたを知ることができたため、他集落にも刺激になった。 (地区福祉委員会の立ち上げに向けた検討) 地域支え合い体制づくり事業の一環で、福祉課を中心に協力して地区別検討会議を実施したが、なかなか思うような組織づくりや、活動につながる意見がでなかった。一部23年度で終了した地区もあるが、継続して検討または活動いただける地区もたくさんあった。
【今後の取り組み】	(地区単位での福祉関係者の連携に向けた取り組み) 23年度実施した地区別検討会議の活動に合わせて、必要であれば各地区年間2回まで懇談会を企画する。 (地区福祉委員会の立ち上げに向けた検討) 24年度は自主的な活動となるため、検討や活動が途切れないよう推進して行くとともに、継続した活動となるよう基盤づくりを行う。

第2次地域福祉活動計画評価 (平成23年度社協事業)

【事業名】	ふれあいサロン推進事業
【基本目標】	助け合い共生しあう地域を育てる 充実した生活を支える
【取り組み内容】	安心して子育てできる環境づくり 地域で集える場づくりの支援 ふれあいサロン活動の推進
【期待される役割】	世代間交流の推進 集いの開催の推進 空き家の福祉的利活用について検討 円滑なサロン活動展開への支援
【評価点】	2.5点 《達成率50%》 (ふれあいサロン活動の推進と支援) ふれあいサロン未実施への啓発は出来なかったが、要望があった集落については、レクレーション用具の貸出し、職員の派遣、運営に関する相談には対応できたということで半分くらいは達成できたのではないかと。 (ふれあいサロン送迎[サービスの実施と改善]) 現状、送迎車両がサロンバスで使用している1台しかなく、サロンバスの空き時間しか送迎出来ない状態。より利用しやすくするためには、サロンバスの時間変更の必要になってくるが、台数が1台しか使用できないため現状は不可能。ただ、地域で支える送迎サービスの体制が整備されつつあるので、少しは達成できたのではないかと。
【今後の取り組み】	(ふれあいサロン活動の推進と支援) 現状のサロン団体に対して、23年度同様に希望がある集落に対応する。 (ふれあいサロン送迎[サービスの実施と改善]) 地域で支える送迎サービス車両が整備出来たので、その車両をサロン送迎に利用してもらい、少しでも緩和出来るよう促していく。

第2次地域福祉活動計画評価
(平成23年度社協事業)

【事業名】	外出支援サービス事業
【基本目標】	充実した生活を支える
【取り組み内容】	充実した送迎体制の検討
【期待される役割】	各サービスについてのニーズ把握と検討
【評価点】	2.0点 <達成率40%> (外出支援サービス事業の見直し) 関係機関と検討、見直しをしたが、良い提案が出せず、関係機関からの要望もあまり出てこなかった事から、一定の成果とまではいかなかったが、新しく内規ができたので、少しは成果をあげる事ができた。
【今後の取り組み】	(外出支援サービス事業の見直し) 利用者に携わりのある関係者と解決に至っていない課題(外出支援の多様な使い方、緊急利用の拡大など)や新しく出てきた課題に対して密度の濃い検討会議を行い、利用者が使い易いよう体制を考えていく。

第2次地域福祉活動計画評価
(平成23年度社協事業)

【事業名】	福祉バス(サロンバス)運営事業
【基本目標】	充実した生活を支える
【取り組み内容】	充実した送迎体制の検討
【期待される役割】	各サービスについてのニーズ把握と検討
【評価点】	3.0点 <達成率60%> (サロンバスのニーズに合わせた柔軟な対応) サロンバスに対するニーズ調査を行った結果、どの項目においても満足されている方がほとんどであったが、具体的な取り組みについては実施しなかったため。
【今後の取り組み】	(サロンバスのニーズに合わせた柔軟な対応) 往路1便目を早めてほしいとの意見もあったため、運行時間の検討を行う。 <課題> 他の公共交通機関の運行との関係。 今後もニーズ調査を行い、要望があった場合には検討する。

第2次地域福祉活動計画評価 (平成23年度社協事業)

【事業名】	日常生活自立支援事業
【基本目標】	確かでわかりやすい情報を伝える 助け合い共生しあう地域を育てる 充実した生活を支える
【取り組み内容】	新たな発信と伝達手段への取り組み 身近な支え合い体制の推進 地域における医療・福祉の充実
【期待される役割】	対象者に応じた効果的な情報の発信 集落内の支え合い体制づくりの推進と支援 広く連携できる支援体制の検討 サービス提供体制の充実
【評価点】	3.0点 <達成率60%> (日常生活自立支援事業の推進) ケアマネのケア会議での説明など、一部での周知にとどまったため。 研修や連絡会には、積極的に参加し、理解を深めることができたため。
【今後の取り組み】	(日常生活自立支援事業の推進) 広報誌への掲載など、周知に努める。 <課題> 金銭の管理については、とてもデリケートな問題であり、認知症などで金銭管理に困っている場合でも、事業利用に繋がらないケースがいくつかあった。 今後も研修会や連絡会については、積極的に参加し、支援の向上に努める。

第2次地域福祉活動計画評価 (平成23年度社協事業)

【事業名】	ボランティアセンター運営事業
【基本目標】	確かでわかりやすい情報を伝える 助け合い共生しあう地域を育てる みんなの思い、やさしさをつなぐ
【取り組み内容】	新たな発信と伝達手段への取り組み 身近な支え合い体制の推進 ボランティアセンターの機能強化
【期待される役割】	対象者に応じた効果的な情報の発信 集落内の支え合い体制づくりの推進と支援 ボランティアセンターとの連携によるボランティアの育成・充実 ボランティアセンターのPR強化 ボランティア登録者名簿整理 ボランティア情報の集約と提供 ボランティアコーディネート機能強化に向けた取り組み
【評価点】	2.1点 <達成率42%> (ボランティアセンター登録者名簿の有効活用) 当センター登録者名簿整理を行ったことで現情報の整理・把握はできたが、その情報をあまり活かすことができなかつたため(有効活用にはいたらなかつた)。 (ボランティアコーディネートの機能強化) 当センター登録者名簿整理を行ない情報の把握はできたが、スムーズなボランティアコーディネート方法の検討にはいたらなかつたため。 (ボランティア活動の推進) 「ボランティアの日」などを通してボランティア活動参加へのきっかけづくりを行うことはできたが、ボランティアセンターのPRを含め、住民への働きかけが不十分であったため。 (対象者に応じた効果的な情報発信) 社協だよりや行政チャンネルなどを用いて、ボランティア情報の発信は行ったが、定期的および対象者に応じた(または絞った)情報発信・提供は不十分であったため。
【今後の取り組み】	(ボランティアセンター登録者名簿の有効活用) ・ボランティアセンターへの登録呼びかけ。全体の登録者が少なく、分野によって登録者数に偏りがあるので、ボランティアニーズが挙がってきてもその内容によっては対応できない。 また、登録者の高齢化が進んでいる。若い世代(20~40代)の方にも積極的に登録の呼びかけを行う。 ・ボランティア登録者名簿の更新(1年ごと)

(ボランティアコーディネートの機能強化)

- ・スムーズなコーディネート方法の検討
- ・ボランティアセンターPR。

ボランティアセンター自体が知られていないため、情報が集まらない。随時、PRを行う。

(ボランティア活動の推進)

- ・「ボランティア出前講座」の実施。地区や集落へ直接職員(講師)が出向き、住民にボランティア講座を行う。ボランティア活動について、まだまだ住民の方に知られていないため集落や地区といった小さな圏域を対象に講座を行い、ボランティア活動の推進を図る。
- ・ボランティアセンターPR。

ボランティアセンター自体が知られていないため、情報が集まらない。随時、PRを行う。

(対象者に応じた効果的な情報発信)

ボランティア情報発信・提供方法の見直し。メールでの情報提供を実施予定。

第2次地域福祉活動計画評価 (平成23年度社協事業)

【事業名】	共同募金委員会事業
【基本目標】	確かでわかりやすい情報を伝える 助け合い共生しあう地域を育てる
【取り組み内容】	新たな発信と伝達手段への取り組み 広報活動の見直し 身近な支え合い体制の推進
【期待される役割】	対象者に応じた効果的な情報の発信 各種研修会、懇談会等での情報提供 社協だよりの内容見直し 各種パンフレットの見直し 集落内の支え合い体制づくりの推進と支援
【評価点】	2.75点 《達成率55%》 (公開審査の推進) 実施要綱によるプレゼンテーションが必要な団体が、1団体だったため、審査委員会にてプレゼンを実施し、公開審査実施に至らなかったため。 (住民の共同募金への参加促進) アンケート結果からも、概ね十分ではないかという結果と、目標額もクリアし、ある一定の成果であったため。 (寄付者の思いに沿った助成事業の実施) 新たな事業として、配食利用者たすけあい事業、活動計画で掲げてある障がい者雇用に関する相談コーナーを事業の中で実施したが、今後も事業を実施していくうえでの見直しも必要ということから、少しの成果しか達成できなかったとする。 (効果的な情報の発信) アンケート結果から概ね十分ではないかという結果と、一定の手段を使い情報の発信ができたため。
【今後の取り組み】	(公開審査の推進) 昨年度、実施要綱を変更し、今年度も継続実施予定だが継続的事业が多数を占めており、公開審査開催に至らない。将来的に公開審査の継続が必要かどうかは今後の検討課題。 (住民の共同募金への参加促進) 今年度も中学生や助成団体には街頭募金等に協力依頼する。中学生にはそれぞれ家族がいるので、子どもや孫が街頭募金に参加すると聞けば自ずと、参加促進につながるので幅広い世代に更なるPRが必要。 (寄付者の思いに沿った助成事業の実施) 助成事業については、前年の反省、活動計画の内容も考慮し内容を計画し実施してく。 (効果的な情報の発信) 随時、効果的な発信を継続していく。

第2次地域福祉活動計画評価
(平成23年度社協事業)

【事業名】	ふくしの資金貸付事業
【基本目標】	充実した生活を支える
【取り組み内容】	地域における医療・福祉の充実
【期待される役割】	サービス提供体制の充実
【評価点】	3.5点 <達成率70%> (相談業務の確立) 相談受付票を作成し、それに基づき記録を作成するようにしたが、既存のケースからの相談があった場合にケースの把握が速やかにできる状況ではないため。 (調査委員会の定期開催検討、実施) 心配ごと相談員連絡会での事例紹介を行い、調査委員へのアンケートでも参考になったとの回答が多かったため。
【今後の取り組み】	(相談業務の確立) 個別ケースファイルの作成。 <課題>合併や担当者の変更などの関係で、ケース記録が抜けている期間が多く、ケースの把握が難しい。 (調査委員会の定期開催検討、実施) 今年度に引続き、心配ごと相談員連絡会にて事例紹介を実施。 <課題>事業特性から、年間通じて相談件数もあまり多くないため、1件も相談を受けなかった民生委員もいる。そのため、あまり事例を身近に感じてもらえない。

第2次地域福祉活動計画評価
(平成23年度社協事業)

【事業名】	生活支援ハウス運営事業
【基本目標】	充実した生活を支える
【取り組み内容】	地域における医療・福祉の充実
【期待される役割】	広く連携できる支援体制の検討 サービス提供体制の充実
【評価点】	4.0点 <達成率80%> (利用者の幅広いニーズに沿った運営) 要介護者の積極的な受け入れを行った。 (個別対応や長期入居などの充実に向けた検討) ・入居者にあった居室の環境作り(レイアウトの変更等) ・在宅復帰に向けた生活訓練の実施(ヘルパー(サテライトを含む)との食事作り等) ・サービス提供事業所を統一することで、より連携をとり、質の向上に努めた。
【今後の取り組み】	(利用者の幅広いニーズに沿った運営) ・判定基準の見直し <課題> ・退居後の行き先がきまらない。 ・再入居の希望が多いが、現在の判定基準では、累積入居期間がなくなると、マイナス点 がつき不利になる。 ・現在の判定基準では、要介護2までしか入居できない。 (個別対応や長期入居などの充実に向けた検討) ・要介護者の入居希望増加に伴う、受入体制作り。 <課題> ・長期入居希望者が多いが、現在の要綱では連続して12ヵ月以内の入居しかできない。

第2次地域福祉活動計画評価
(平成23年度社協事業)

【事業名】	リラクゼーション施設運営事業
【基本目標】	確かでわかりやすい情報を伝える
【取り組み内容】	広報活動の見直し
【期待される役割】	各種パンフレットの見直し
【評価点】	2.0点 <達成率40%> (住民への周知) ・各事業所の窓口等に配置したのみで、十分なPRが出来なかった。 (施設の有効利用と新規サービスの検討) ・施設の有効利用と新規サービスを検討するところまで至らなかった。
【今後の取り組み】	(住民への周知) ・PR活動(近隣の企業等へのチラシ配布) <課題> ・周知方法の検討(現在はほぼロコミ) (施設の有効利用と新規サービスの検討) ・全体の営業日見直し ・施設使用料の見直し ・新規マッサージサービスの開始 <課題> ・入浴、整体、理美容の実績低迷

第2次地域福祉活動計画評価 (平成23年度社協事業)

【事業名】	食事サービス事業
【基本目標】	充実した生活を支える
【取り組み内容】	安心安全な食の提供
【期待される役割】	昼食だけでなく朝夕を含めた提供体制の検討 身近な地域での配食サービス体制づくり
【評価点】	<p>4.15点 《達成率83%》</p> <p>(食事サービス対象者のニーズ調査) アンケートの結果、味、量、盛付、価格など適当・健康面に配慮されている(自分に合っている)との意見が多かった。</p> <p>(食の自立支援事業とまごころ給食の見直し) お弁当の対象条件やセット内容など見直したことにより利用が増加傾向にある。 利用しやすくなったという意見もいただいた。</p> <p>(共同募金を活用してお弁当補助を考える) 配食ボランティアの意見交換会でいただいた意見を地域事業と一緒に検討し「おせち」を実施したところ大変好評だった。少量ずつ25種類ほどのメニューを入れたので利用者さんから感動の一言をたくさんいただいた。</p> <p>(朝昼夕の配食サービスの取り組み) 夕食のニーズがあがりすぐに対応することができた。</p> <p>(真空調理法の研究と拡大・特別食の充実) 五湖の郷へ朝食用とムース食用の調理食材をパックして送り経費を少し節約することができた。市販の真空パック商品の価格調査実施、試食品作成中(工夫中)</p> <p>(各地区での配食サービスと民間サービスとの連携を図る) 問い合わせがあった時に紹介をした(1件)</p> <p>(ボランティアの輪 呼びかけ) 広報による募集と口コミによりボランティア3名加わってくださった(上中)</p> <p>(選択メニュー方式の取り組み) ディで寿司バイキング実施したところ大変喜んでいただいた。足の不自由がおられるためこちらが動く形にした。一部、形のある物が食べられない方から「みんなと同じ物が食べたけれど食べられなくて悲しかった」・・・という声があった。</p>

【今後の取り組み】

(食事サービス対象者のニーズ調査)

満足度アップになるよう努める。

(食の自立支援事業とまごころ給食の見直し)

今後はお弁当の内容の充実とパックの見直しをする(もう少し大き目のお弁当箱だったらもっとおいしそうに見えると思うという意見もあったため経費を考慮しながら検討する)

(共同募金を活用してお弁当補助を考える)

今年度も実施できるように検討する。

(朝昼夕の配食サービスの取り組み)

配達の体制が取れていないため(職員で対応している)検討する。

(真空調理法の研究と拡大・特別食の充実)

真空調理には手間が大変かかるため、手の有る時と無い時のバランスを考慮し進めていく。

価格調査の結果、経費の節約につなげていくためにはまだまだ検討が必要(市販の中国食材はかなり安価で販売されている)5~6月に試食、8月モニター実施予定

(各地区での配食サービスと民間サービスとの連携を図る)

社協で対応できない場合は民間サービスと連携を取り、どんな対応をとることが良いかを検討し進める。

(ボランティアの輪 呼びかけ)

社協だよりによる呼びかけ、口コミを続ける。

(選択メニュー方式の取り組み)

利用者さんに耳を傾けて喜んでいただけるような楽しい企画を一步ずつ進めていきたい

(お一人でも悲しい思いをされる方が無いようにムース食の充実を図り配慮していきたい)

第2次地域福祉活動計画評価
(平成23年度社協事業)

【事業名】	葬祭事業
【基本目標】	充実した生活を支える
【取り組み内容】	地域における医療・福祉の充実
【期待される役割】	身寄りのない方の安価な葬儀の検討
【評価点】	4.0点 <<達成率80%>> (すべての人が安心して故人様をお送りできるサービスの充実) 斎場予約対応、マイクロバス送迎対応、霊柩車の対応、斎場での職員の対応について、アンケート回答者150名中、不満と答えた人はマイクロバス送迎対応について4件のみであった。(不満の理由は、予約重複によりバスが利用できなかったこと) しかし、身寄りのない人への簡易葬が実施できなかった。
【今後の取り組み】	(すべての人が安心して故人様をお送りできるサービスの充実) 斎場での簡易葬については、利用したいとの回答が53%あり、すべての人の安心のため、また冠婚葬祭の簡素化に向けた簡易葬の実施について検討をする。

第2次地域福祉活動計画評価 (平成23年度社協事業)

【事業名】	居宅介護支援事業
【基本目標】	充実した生活を支える
【取り組み内容】	地域の社会資源を活かしたネットワークづくり 地域における医療・福祉の充実
【期待される役割】	ネットワークづくりに向けた準備 広く連携できる支援体制の検討 サービス提供体制の充実
【評価点】	3.8点 <達成率76%> (安心した在宅生活の維持) アンケートの結果により、安心した在宅生活を維持する上での支援として、訪問による相談、介護保険サービスの説明、書類手続きの援助、言葉使いや態度への誠実さ等は出来ているが、サービス担当者会において、本人家族の出席が少なく今後の課題と思われるため。 (職員の資質向上) ・同じ研修に数名が参加したり、資質向上に繋がる研修へ参加する機会が少ない。 ・月に3回、ミーティングを実施し、困難ケースについての事例検討を行えている。
【今後の取り組み】	(安心した在宅生活の維持) ・サービス担当者会、カンファレンス開催時に、本人、家族の出席を呼びかけ、本人、家族の思いをサービス担当者間で共有し、安心できる在宅生活へと結びつける支援を行う。 ・医療サービスを必要とする方が増えているため、医療機関、行政、地域との連携を図る。 (職員の資質向上) ・認知症を含めた医療面の研修への参加。 ・1つの研修に数名参加するのではなく、1名が参加し内容について、他職員に確実に伝える。

第2次地域福祉活動計画評価 (平成23年度社協事業)

【事業名】	通所介護事業パレア若狭
【基本目標】	充実した生活を支える
【取り組み内容】	地域における医療・福祉の充実
【期待される役割】	広く連携できる支援体制の検討 サービス提供体制の充実
【評価点】	<p>3.55点 《達成率71%》</p> <p>(日常生活動作を維持できるよう質の高いサービス提供を目指す) 情報共有という部分において、職員同士の連絡ミス等があり十分に対応が出来ていない。 (医療・福祉サービスとの連携を深め、サービス向上を目指す) 関係機関との連絡調整については、ある程度迅速に対応出来たと思う。 (要介護者の心身の特性を踏まえ、在宅生活が維持継続できるよう支援する) 自立支援を目的としているが、必要以上の介護を提供していることもある。在宅生活の延長であることを重視しサービス提供を行う。 (介護から快護へ)</p> <p>利用者アンケート結果では、満足したサービスが受けられるという高い評価を受けることができた。が、要望や不満等の対応についての評価は、今ひとつ十分な対応が出来ていない様子。</p> <p>(リハビリテーションの推進)</p> <p>デイサービスに通う事がリハビリの一環としている。個別対応にて歩行訓練等実施しているケース有。個別機能訓練加算の算定を廃止している1月からは集団リハとして体操を実施しているが、ワンパターン化の傾向がある。</p> <p>(活動しやすい環境づくり)</p> <p>アンケート結果では、家族との情報交換ができていたという評価を得たものの、事業所側からの評価とすると、家族から受けた連絡の伝達し忘れや確認不足がある。</p> <p>(多様化するサービスニーズへの対応)</p> <p>個別に希望されるサービス(ex:創作活動、脳トレ等)については、対応できているが、計画書に掲げた、サービスメニューの選択方式での提供が出来ていない。</p>

【今後の取り組み】

(日常生活動作を維持できるよう質の高いサービス提供を目指す)

職員間の情報共有の強化(連絡を密に取る)

(医療・福祉サービスとの連携を深め、サービス向上を目指す)

各種関係機関との連携を更に深め、サービス向上に繋げる。

(要介護者の心身の特性を踏まえ、在宅生活が維持継続できるよう支援する)

職員全員がデイ本来の目的、自立支援であるという事を再認識し、在宅生活の延長である事を重視しながら、サービス提供を行う。

(介護から快護へ)

利用者および家族からの要望・不満等に対して迅速的に対応を行う。

(リハビリテーションの推進)

集団リハビリの充実を図る。

<課題>ADL機能維持・運動機能向上等に関連する研修必要。職員の資質向上。

(活動しやすい環境づくり)

季節感を味わえる行事を企画しながら、利用者の満足度を上げる。

(多様化するサービスニーズへの対応)

<課題>選択方式のサービスメニューを実施するとなると、グループごとに職員配置をしなければならない為、人員体制の見直しが必要となる。

第2次地域福祉活動計画評価 (平成23年度社協事業)

【事業名】	通所介護事業いずみ
【基本目標】	充実した生活を支える
【取り組み内容】	地域における医療・福祉の充実
【期待される役割】	広く連携できる支援体制の検討 サービス提供体制の充実
【評価点】	3.8点 <達成率76%> (日常生活動作を維持できるよう質の高いサービス提供を目指す) 職員の介護技術が不十分だった。 (医療・福祉サービスとの連携を深め、サービス向上を目指す) 医療機関との連携がなかなかとれにくかった。 (要介護者の心身の特性を踏まえ、在宅生活が維持継続できるよう支援する) 支援できた。 (介護方針の統一) 介護方針統一の為、他事行所とも連絡をとりあい、事業所間においても統一ができていた。 (利用者満足度の向上) 個別的な支援が不十分だった。
【今後の取り組み】	(日常生活動作を維持できるよう質の高いサービス提供を目指す) 生活機能向上グループを強化し、生活リハビリを勧めていく。 <課題>計画書の作成方法 (医療・福祉サービスとの連携を深め、サービス向上を目指す) カンファレンスの強化、利用者の体調管理の連携を図る。 <課題>内部ケアマネの連絡が取りにくい。 (要介護者の心身の特性を踏まえ、在宅生活が維持継続できるよう支援する) 担当職員(利用者)が利用者の問題点、今後の介護方針を話しあえる、会議をひらく。 <課題>月の大半がショートステイ利用となると難しい。 (介護方針の統一) 職員ミーティングの強化、内部研修を行う。 <課題>営業時間の延長に伴い日々のミーティング時間の確保が困難。 (利用者満足度の向上) あらゆる声をかたちにしていく為、時にはアンケートを実施する。

第2次地域福祉活動計画評価 (平成23年度社協事業)

【事業名】	通所介護事業五湖の郷
【基本目標】	充実した生活を支える
【取り組み内容】	地域における医療・福祉の充実
【期待される役割】	広く連携できる支援体制の検討 サービス提供体制の充実
【評価点】	<p>4.0点 <達成率80%></p> <p>(日常生活動作を維持できるよう質の高いサービス提供を目指す) 内部研修会を通して職員の更なるスキルアップにつなげていく事が必要。 (医療・福祉サービスとの連携を深め、サービス向上を目指す) サービスの向上を目指す為には今後も連携を深める事は必要。 (要介護者の心身の特性を踏まえ、在宅生活が維持継続できるよう支援する) 在宅生活の維持の為に、利用者状況の把握を確実に行う事必要不可欠であり今後も継続していく。</p> <p>(情報共有・心身機能維持・精神負担軽減) 情報共有をする事で統一したケアが行えると考えられる為継続して実施。 (ノーマライゼーションに向けた世代間交流) 定期的に近隣施設と交流会をもてたが、こちらからの積極的な活動が必要。 (信頼関係づくり) 日常の活動を通じ関係づくりはできているが、更に信頼頂けるようにしていく。</p>
【今後の取り組み】	<p>(日常生活動作を維持できるよう質の高いサービス提供を目指す) 質の高いサービス提供の為に、内部研修等を積極的に行っていく。 (医療・福祉サービスとの連携を深め、サービス向上を目指す) ケアカンファレンス等を通して今後も更に連携を深めてより良いサービスに努める。 (要介護者の心身の特性を踏まえ、在宅生活が維持継続できるよう支援する) 個々の利用者状況を把握し、機能維持ができるサービス内容を提供する。 (情報共有・心身機能維持・精神負担軽減) 利用者の情報を共有できるよう今後も職員間での情報の共有を密にする。 (ノーマライゼーションに向けた世代間交流) 今後も継続して積極的に近隣施設との交流会を継続していく。 (信頼関係づくり) コミュニケーションを積極的に図り、必要としている物事を見つけ出す。</p>

第2次地域福祉活動計画評価 (平成23年度社協事業)

【事業名】	障がいデイサービス事業
【基本目標】	充実した生活を支える
【取り組み内容】	障がい者就労支援ネットワークの強化 障がい者雇用についての理解、促進 地域における医療・福祉の充実
【期待される役割】	就労のための環境づくりの支援 物品購入や業務委託等による協力 障がい者支援に対する理解と協力 広く連携できる支援体制の検討 サービス提供体制の充実
【評価点】	3.65点 《達成率73%》 (生活の質(QOL)の向上を図り、障害特性や個々のニーズに合わせた活動プログラムの充実)できる限り要望に応じてリハビリ体制を充実したが、静養場所との調整が困難であった。 (個々の状況に応じたサービス満足度の向上(入浴・食事等)) 設備や体制の問題で入浴希望者の全てのニーズに応えられていない。 (作業等を通しての社会経済活動への参加促進) 自販機補充や空き缶つぶしは軌道に乗ってきたが、工賃支給まで至っていない。 (支援及び介護技術の研修等の充実(職員のスキルアップ)) 内部研修で適宜対応している。 (関係機関や関連事業所等との連携(ケア会議等含む)) 自立支援協議会等で関係機関や関連事業所との連携を図っている。 (日中における活動の場の確保と日中一時支援事業(放課後デイ・長期休暇スクール)の充実) 生活介護の利用者と日中一時支援事業の児童の活動場所の重複を解消するため会議室を活用している。
【今後の取り組み】	(生活の質(QOL)の向上を図り、障害特性や個々のニーズに合わせた活動プログラムの充実) ・個々のリハビリの充実と静養場所の確保 ・自閉症者のパニック時の対応 (個々の状況に応じたサービス満足度の向上(入浴・食事等)) ゆったりとリラックスできる入浴時の環境作り。 (作業等を通しての社会経済活動への参加促進) 工賃支給体制の整備。 (支援及び介護技術の研修等の充実(職員のスキルアップ)) 外部研修への積極的参加。 (関係機関や関連事業所等との連携(ケア会議等含む)) 自立支援協議会等との更なる連携強化。 (日中における活動の場の確保と日中一時支援事業(放課後デイ・長期休暇スクール)の充実) 児童の利用が増え、小低から高等部まで年齢層が幅広く、年齢に合った活動内容の充実。

第2次地域福祉活動計画評価 (平成23年度社協事業)

【事業名】	訪問介護事業
【基本目標】	充実した生活を支える
【取り組み内容】	地域における医療・福祉の充実
【期待される役割】	広く連携できる支援体制の検討 サービス提供体制の充実
【評価点】	3.35点 《達成率67%》 (関連機関との連携による総合的なサービス提供) ケース記録を毎月ケアマネに文書で報告した。福祉課や訪看との連絡も密に行った。 (利用者のニーズに寄り添った援助に努める) 緊急の訪問にも出来る限り対応し、急なケア内容変更にも柔軟に対応出来た。 (利用者の意見や人格を尊重し、適切な介護をする) 利用者の精神的な安定に繋がる介護を心がけた。ヘルパーによって意識にバラつきがあった。 (スキルアップと人材育成に努める) 内部研修は定期的に出来たが、外部研修は充実できなかった。 (スタッフ間の連携をを密にし、記録を残す) 常勤ミーティングや定例会を通じて連携が取れた。パート職員の割合が高く、電話連絡やメールでの伝達が多かった。 (スタッフの充実を図り、定着を目指す) 常勤職員の異動があり、定着が難しかった。
【今後の取り組み】	(関連機関との連携による総合的なサービス提供) 口頭や電話での連絡事項や報告事項を、文書に残す。 (利用者のニーズに寄り添った援助に努める) 利用者のニーズに、より敏感に対応する。 (利用者の意見や人格を尊重し、適切な介護をする) 常に利用者の立場に立ちながら、ケアにあたる。 (スキルアップと人材育成に努める) 定期的な内部研修と共に、外部の研修にも積極的に参加する。 (スタッフ間の連携をを密にし、記録を残す) 口頭や電話での伝達事項を、文書に残す。 (スタッフの充実を図り、定着を目指す) ケア内容を整理したり、より働きやすい環境を整える。

第2次地域福祉活動計画評価 (平成23年度社協事業)

【事業名】	訪問入浴介護事業
【基本目標】	充実した生活を支える
【取り組み内容】	地域における医療・福祉の充実
【期待される役割】	広く連携できる支援体制の検討 サービス提供体制の充実
【評価点】	4.0点 <達成率80%> (心身の清潔保持、気分転換、機能維持向上が出来たか) 71%が出来ているとの回答あり。 (医療機関や他の事業所と連携をとり、安全なサービスが出来たか) サービス提供後何らかの体調の変化がある場合は、関連しているサービス事業所に連絡を入れるようにした。 (「訪問入浴介護計画書」通りに入浴出来ているか) 79%が出来ているとの回答あり。 (安全衛生管理は出来ているか) 86%が出来ているとの回答あり。 (ケースミーティングの開催、研修参加は行っているか) ケースミーティングはほぼ毎月行ったが、外部研修の参加が出来ていない。 (啓蒙活動は出来ているか) ケアマネージャーからの希望入浴でしか件数が増えない。
【今後の取り組み】	(心身の清潔保持、気分転換、機能維持向上が出来たか) 利用者の希望する入浴が提供出来るようにする。 (医療機関や他の事業所と連携をとり、安全なサービスが出来たか) 利用者の体調の変化や異常の早期発見が出来るようにする。 (「訪問入浴介護計画書」通りに入浴出来ているか) 時間変更がないようにする。 (安全衛生管理は出来ているか) 感染症のある利用者の入浴後の消毒の徹底をする。 (ケースミーティングの開催、研修参加は行っているか) 積極的に研修に参加する。 (啓蒙活動は出来ているか) 広報活動を積極的に行う。

第2次地域福祉活動計画評価 (平成23年度社協事業)

【事業名】	訪問看護事業
【基本目標】	充実した生活を支える
【取り組み内容】	地域の社会資源を活かしたネットワークづくり 地域における医療・福祉の充実
【期待される役割】	ネットワークづくりに向けた準備 広く連携できる支援体制の検討 サービス提供体制の充実
【評価点】	<p>3.0点 《達成率60%》</p> <p>(24時間連絡体制の周知) 約82%に周知できているが18%が知らなかったと回答ある。</p> <p>(希望に応じたサービスの提供) 74%が大変病状が改善した、状態が安定した、18%が特に変わらないと回答ある。</p> <p>(病状に応じた看護の提供) 66%が提供した看護に大変満足しており希望どおり、34%が概ね満足され大体希望どおりと回答ある。</p> <p>(介護負担の軽減) 85%が介護負担が軽減し自分の時間が持てるようになった、介護に対する不安が軽減したと回答ある。</p> <p>(医療機関、ケアマネージャー等との連携) 今回、訪問看護を利用しているケアマネのみにアンケートをとりアンケートの結果100%が連携できていると回答あった。</p> <p>(利用者、介護者との信頼関係) 介護で困った時看護師に相談できるかという問いに47%が良くできる、38%が大体できると回答しており、あまり出来ない、全く出来ないと回答したものはいない。</p> <p>(リスクマネジメントの評価) 些細なインシデントには報・連・相で終わりインシデントレポート提出していないことが多い。</p> <p>(研修などに参加し自己研鑽を図る) 土、日以外は訪問の為、積極的に研修に参加できない。</p> <p>(広報活動の実施) 地域や医療機関において、まだまだ訪問看護の認知度が低い。「訪問看護師は何をしてくれるの?」と言われることがある。</p>

【今後の取り組み】

(24時間連絡体制の周知)

難病、ターミナル期の利用者を看取るためには24時間の在宅医療が不可欠である為、今後も24時間体制を周知していく。

(希望に応じたサービスの提供)

在宅療養を継続できるよう、今後も異常の早期発見に努め、病状に応じた看護を提供していく。

(病状に応じた看護の提供)

利用者、介護者の希望に添うような看護が提供できるようスキルアップしていく。

(介護負担の軽減)

今後も介護負担が軽減し、在宅療養を継続していけるようなケアを提供していく。

(医療機関、ケアマネージャー等との連携)

ケアマネージャーとは連携できているが、その他医療機関などとの連携を強化していく。

(利用者、介護者との信頼関係)

サービスを提供していく上で、信頼関係がもっとも重要である為、今後も良い人間関係が築けるよう接遇を向上していく。

(リスクマネジメントの評価)

些細なインシデントもレポートを記入して、スタッフで共有しリスク管理をしていく。

(研修などに参加し自己研鑽を図る)

年間の研修計画に沿って積極的に参加していく。

(広報活動の実施)

新しいパンフレットを作成し、広報活動を継続していく。

第2次地域福祉活動計画評価 (平成23年度社協事業)

【事業名】	ケアホーム事業
【基本目標】	充実した生活を支える
【取り組み内容】	障がい者就労支援ネットワークの強化 地域における医療・福祉の充実
【期待される役割】	就労のための環境づくりの支援 広く連携できる支援体制の検討 サービス提供体制の充実
【評価点】	3.55点 《達成率71%》 (日常生活上のルールやマナーを習得し、居住しやすい環境の整備) 共同生活のルールやマナーが守れていないため、入居者同士が不満を持っている。 (余暇の充実とコミュニケーション重視で心地よい生活を送る) 定期的な余暇支援を実施している。 (一時的介護が必要なサービスの充実(短期入所等)と家族等の身体的及び精神的な負担の軽減) 入居者への支援はある程度できてきたが、短期入所等の受け入れ体制が困難。 (研修等による支援技術の習得とスキルアップ) 内部研修でスキルアップを図っている。 (報告、連絡、相談の徹底と情報共有) 担当者間での連絡は出来てきた。
【今後の取り組み】	(日常生活上のルールやマナーを習得し、居住しやすい環境の整備) ・年齢や障がいの有無ではなく、役割をもつ中での家庭的な雰囲気作り。 ・お互いの譲り合い精神を育む。 (余暇の充実とコミュニケーション重視で心地よい生活を送る) 入居者の希望に応じて、休日の過ごし方を考えている。 (一時的介護が必要なサービスの充実(短期入所等)と家族等の身体的及び精神的な負担の軽減) ・短期入所等の充実。 (研修等による支援技術の習得とスキルアップ) ・外部研修等への積極的な参加。 ・制度理解や支援技術の習得。 (報告、連絡、相談の徹底と情報共有) ・各担当者や事業所間での情報共有を図る。

第2次地域福祉活動計画評価 (平成23年度社協事業)

【事業名】	特別養護老人ホーム事業
【基本目標】	充実した生活を支える
【取り組み内容】	地域における医療・福祉の充実 地域に密着した新たなサービスへの取り組み
【期待される役割】	広く連携できる支援体制の検討 サービス提供体制の充実 地域密着型サービス事業の推進
【評価点】	3.5点 《達成率70%》 (入居者の個性や生活リズム・習慣を大切にしたいその人らしい生活が営まれるように支援する) 個々の生活リズムを大切にしたい取り組みに頑張った。 (入居者の趣味・余暇活動の支援を行う) 全ての入居者への対応はまだ出来ていない。 (入居者が気兼ねする事なく何でも頼める関係作りに努める) なかなか頼み事を自分から言ってもらえない方がいる。 (入居者の残存機能維持の為、日常生活における生活リハビリ・機能訓練に取り組む) 看護師を中心に意欲的に取り組んでいた。 (認知症があっても、安心して生活して頂ける様に、一緒に寄り添う気持ちで接する) スタッフの対応の仕方にもばらつきがあるが、ほぼ対応できた。 (地域密着型の特性を活かし、地域や家庭との結びつきを大切にしたい空間作りに努める) 地域や家族の面会等が活発に行われていた。
【今後の取り組み】	(入居者の個性や生活リズム・習慣を大切にしたいその人らしい生活が営まれるように支援する) 引続き、より一層努力する。 (入居者の趣味・余暇活動の支援を行う) 1日の中でもゆったり過ごせる時間を見つけ取り組んでいく。 (入居者が気兼ねする事なく何でも頼める関係作りに努める) 介護員側から聞いていく対応で関係作りを行う。 (入居者の残存機能維持の為、日常生活における生活リハビリ・機能訓練に取り組む) 引続き取り組んでいく。 (認知症があっても、安心して生活して頂けるように、一緒に寄り添う気持ちで接する) 認知症の方の対応の仕方の勉強会を行う。 (地域密着型の特性を活かし、地域や家庭との結びつきを大切にしたい空間作りに努める) 今後も地域住民との関わりを強化していく。

第2次地域福祉活動計画評価 (平成23年度社協事業)

【事業名】	認知症対応型グループホーム事業
【基本目標】	充実した生活を支える
【取り組み内容】	地域における医療・福祉の充実 地域に密着した新たなサービスへの取り組み
【期待される役割】	広く連携できる支援体制の検討 サービス提供体制の充実 地域密着型サービス事業の推進
【評価点】	3.7点 <達成率74%> (共生型の施設作り) 何名かの入居者に、交流が持てるような日常的な役割を行ってもらう事で、日々関係性が築けてきている手ごたえを感じた。また、ケアホームとの合同行事も行ったが、定期的な実施は出来なかった。 (生きがいを持てる生活作り) 本人の好きな事や季節感のある行事が提供できたが、外部からは見えにくい。その方の趣味や好きなことを活動に取り入れ提供したが、継続して行うことが難しかった。 (地域に密着した交流活動の実施) 入居者にとっては地域との世代間交流でもあり、生徒・児童には勉強の場でもあるという有意義な交流会が定期的に継続して持てた。 地域のボランティアもマッサージやお手玉作りなど活動内で交流ができた。
【今後の取り組み】	(共生型の施設作り) 現在は交流に繋がるような役割を持っている方は少ないので、他の入居の方にも広げていきたい。また、大規模な物でなくても、合同の行事を継続して実施していきたい。 (生きがいを持てる生活作り) 全体的な活動や行事は、継続して提供ができたので、今後は個々に焦点をあて、生きがいを持てる何かが、日々の生活の中で生かされるようサービスを提供していきたい。また、将来的には、家族にも、何らかの形で関わってもらえるように考えていきたい。 (地域に密着した交流活動の実施) 今年度は近隣施設からの交流活動の働きかけが多かったため、五湖の郷からの働きかけを多くし、更に交流の範囲を広げて生きたい。 地域のボランティアも単発ではなく継続して交流ができるように働きかけていく。

第2次地域福祉活動計画評価 (平成23年度社協事業)

【事業名】	小規模多機能型居宅介護事業
【基本目標】	助け合い共生しあう地域を育てる 充実した生活を支える
【取り組み内容】	身近な支え合い体制の推進 安心して子育てできる環境づくり 地域で集える場づくりの支援 地域の社会資源を活かしたネットワークづくり 安心安全な食の提供 地域に密着した新たなサービスへの取り組み
【期待される役割】	集落内の支え合い体制づくりの推進と支援 要介護者の困りごとを解決するシステムづくりへの協力と研究 集落内の支え合い活動への協力や支援 集落内だけでは解決できない課題への対応 世代間交流の推進 空き家の福祉的利活用について検討 ネットワークづくりに向けた準備 身近な地域での配食サービス体制づくり 空き家の福祉的利活用 地域密着型サービス事業の推進
【評価点】	3.25点 《達成率65%》 (一人ひとりの「思い」「願い」「生活リズム」を大切にケアの提供) サービス利用をはじめから、家族から見てもスタッフから見ても利用者が生き生きと過ごす姿が見られるという変化をもたらした結果を得たため。 (自宅に24時間・365日の安心を届ける継続的支援) 体調や日々の都合に合わせてプランを日々変更させて、断らない努力をしたことが満足度につながっているアンケート結果であった。 (介護の「困った!」に対応する技術の習得と提供) 職員と利用者・家族との信頼関係は出来てきているが、知識・技術が伴わない場面が多くあるため。 (地域のみんなで検討する機会の確保) 通いの場に来てくれる人が限られている現状がある。少しずつ支援してくれる人は増えているが、地域住民との検討する機会を作れなかったため、地域の一員であるためにも検討の機会を作らないといけなかった。

【今後の取り組み】

(一人ひとりの「思い」「願い」「生活リズム」を大切にしたケアの提供)

認知症の利用者が増えているので、その人らしさを大切にした個別ケアの質の向上を図る。

(自宅に24時間・365日の安心を届ける継続的支援)

緊急時には小規模のサービスだけでなく、地域力で支えることが出来るように介護技術の向上と地域の人とのパイプ役になれるよう努める。

(介護の「困った!」に対応する技術の習得と提供)

利用者や家族の些細な変化に気付き、卒にはまらない柔軟な対応ができるよう見る目・聴く力・行動する力が発揮できるよう努める。

(地域のみんなで検討する機会の確保)

地区行事への参加や地域の人との交流を深める。ボランティアや地域の人が集える場所づくりに努める。

第2次地域福祉活動計画評価 (平成23年度社協事業)

【発展強化項目】

職員体制強化計画

【評価点】

3.0点 <<達成率60%>>

(1 業務を見直し、組織改革に努めます)

各事業ごとに職員の業務分担を作成し、それに沿って事業運営にあたっていますが、職務の範囲や責任等が必ずしも明確になっていないため、課題に対して的確に対応できないことがあります。そのため、必要時の業務見直しや組織改革に至らないことがあります。

(2 福祉サービス提供等事業実施に必要な職員の確保に努めます)

緊急的な対応が頻繁で、情報収集や情報伝達に時間を費やすことが困難な状況です。

(3 職員の専門性を高めるため各種の資格取得を図ります)

受験資格や受講資格を満たしているにもかかわらず、取得に消極的な職員もいます。

(4 人事評価制度を導入します)

導入により、業務成績および職務に関する能力を評価する手立てはできましたが、適正な運用となるまではもう少し時間が必要だと思われます。さらに今後は経営能率の向上や、実績アップにつながることを期待されます。

(5 職員行動規範を理解し、実践します)

業務にあたる時、自然と行動規範に基づく対応ができるようには至っていません。

【今後の取り組み】

(1 業務を見直し、組織改革に努めます)

①社会福祉法人新会計基準に適応する組織体制づくりをすすめます。

②業務分担に基づく職務の範囲や責任の明確化を図ります、(各主任への周知および実施方法の進め方が課題です。)

③若狭地区4町社協の連携を深め情報の共有を図ります。

(2 福祉サービス提供等事業実施に必要な職員の確保に努めます)

①適正化を図るため、各事業の必要人員を把握します。

②緊急採用に備えて、情報収集に努めます。

(3 職員の専門性を高めるため各種の資格取得を図ります)

①介護福祉士については、資格取得方法の見直しが延期(平成27年度に変更)となりましたので、条件を満たす職員の取得をすすめます。(目的を持った資格取得となるような意識改革が課題です。)

(4 人事評価制度を導入します)

①成績区分を3段階から5段階に変更します。(定着し、より精度を高めることが課題です。)

②各事業ごとの人事評価資料の見直しを図ります。

③資質向上のため、職員研修の充実を図ります。

(5 職員行動規範を理解し、実践します)

①様々な機会を活用して理解を深めます。

②実践できているかどうか常に振り返る機械を持つよう心がけます。

第2次地域福祉活動計画評価 (平成23年度社協事業)

- 【発展強化項目】 安定的な財政運営
- 【評価点】 2.1点 ≪達成率42%≫
(努力目標の数値化)
月度の収支状況および経費状況がわかる資料の提示が出来ていない。
(公費補助金の安定的な確保のため、行政等との定期交流会を開催)
提出物については期日厳守を徹底しているが、交流会等は行っていないため。
(中期的な収支計画の策定)
現在、複数年度に渡る収支計画を策定しておらず、そのための用意も行っていない。
(会費加入率、募金額の増加に向けた広報強化)
会費とは何か、どのような事に使われているのか等を、分かりやすく伝える事が現時点で出来ていない。
(特別会員の拡大)
平成23年度に1件、新規加入として、納入して頂ける企業が増えたが、拡大には至っていない。
- 【今後の取り組み】 (努力目標の数値化)
事業活動収支の状況を業務連絡会を通じて周知します。それをもとに経費削減の目標値を設定します。また事業実績表の提示も行います。(ゼロ決算をうつ部門における目標値の数値化が表現しにくいのか課題です。)
(公費補助金の安定的な確保のため、行政等との定期交流会を開催)
行政と連携を取り合い、書類の整備等をスムーズに行います。
(中期的な収支計画の策定)
新会計基準の導入に伴う変更点やシステムの取り扱いを、各主任へ指導します。
(会費加入率、募金額の増加に向けた広報強化)
窓口となっただく福祉委員さんへ会費納入の分かりやすい資料を作成します。(お金に関する事に嫌悪感ではなく、興味をもっただくようにすることが課題です。)
(特別会員の拡大)
共同募金との連携を図ります。(使い道を分かりやすく示したものを各企業へお渡しできるとよいと思います。)